

第3章 自由回答及びその他の回答

自治協議会アンケート

問1. 会長は、どのような方法で選出していますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

問1 5. その他

- ・ 三役により決定
- ・ 自治会長の中から選考
- ・ 前会長による指名
- ・ 副会長の中より選考
- ・ 自治会連合会会長が自治協議会会長を兼ねる

問12. 広報紙を発行していますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問12 5. その他

- ・ 各町、各団体毎に必要な応じて発行
- ・ 毎年4月に自治協単独の広報紙を発行

問14. 現在福岡市では、地域における諸団体などの長(自治協議会会長など)への女性の就任状況は2割程度となっています。

あなたは、地域における活動に女性のリーダー(長)が少ない理由は何だと思えますか。当てはま

問14 8. その他

- ・ 幼少期からの生き方に起因する。
- ・ 意識の問題
- ・ 女性の意識が低い
- ・ 女性の町内会長がない
- ・ 女性の適任者はいると思われるが、個別に把握が難しい

問15. あなたは、地域における活動において、女性リーダー（長）を増やすために、どのような取組みがあったらいいと思いますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問15 7. その他

- ・ 家族の理解・協力
- ・ 国家規模、国際的に活躍する女性による講演。社会全体、国家全体での意識変革が必要
- ・ 町内会長としての実績
- ・ 現役世代や家事といった時間が取れない世代より50～60歳以上の世代にこの状況を理解してもらおう環境作り
- ・ 日常的に女性の登場の場を増やす事の積み重ね

問17. 前問でご回答いただいた方にお尋ねします。どのような課題が解決、また取組みが活発化したか、差支えなければ内容を具体的に教えてください。

問17 課題解決内容
・(組織として)ボランティアを委員会として組織化に活動しており、すごく助かっている。
・校区全体で防災訓練活動を予定しているが、高齢者の参加、呼び掛けを女性連絡会、民生委員、男女共同参画に参加してもらい、災害時のトイレ、水、女性衛生品といった目線で働き掛けを心掛けたい。
・従来の子ども会にとらわれない組織作りをして連絡網体制にし、子ども会会長会など、出席することがない校区行事参加体制を作りつつある。
・行事企画や組織づくりについて、各種行事を計画する時、色々と動いてもらえる。防災について、災害時、男性、女性両方からの考えを参考にできる。
・高齢者見守り(ふれあいネットワーク)、民生委員、不登校児童対策などに女性役員が活動する場面が増えつつある。女性特有の地域ネットワークを活用し、きめ細かい対応を可能にしている。
・女性目線を重要視すること、女性の長を1人でも多く増やしたい。心のきめ細かな行き届いた体制を目指している所です。結果は今からです。
・チラシ、ポスター等の作成で女性のセンスが活かされたスマートな作品が出来た。
・ふれあいネットワークで高齢者の家を訪問する時は、女性の方が安心される。校区敬老会では、案内状の配布、出欠の確認、高齢者に対する当日のもてなし、欠席者への配布品配り等をお願いしている。高齢者に対する配食、イベント等の献立及び弁当作りをお願いしている。
・夏祭りの景品やイベントなど女性の視点で住民の意向が反映された。
・各行事における細かい女性目線での指摘がされている。
・環境美化では町内の花いっぱい運動の推進やゴミ出しルールの徹底等効果を上げている。カフェやよってこ会等開催する事で高齢者の引きこもりをなくし、絆づくりが推進されている。
・企画会議等で活発な意見が出来る様になった。花いっぱい運動が活発になった。
・健康作りを担当して頂き地域の老人施設、病院、薬局を巻き込んだ「健康フェスタ」の立上げに頂きました。
・行事に協力的で物事がスムーズに進んだ。子ども達の為に色々な企画を考えてくれた。
・高齢に対して細かい点にまで配慮が行き届く。
・高齢者の行事参加者が増加した。特に食事提供の場合には女性が多くなる傾向がある。
・高齢者や児童の行動、考え方に、女性の視点からのアドバイスや、積極的な活動によって活発化した。
・高齢者見守り支援で戸別訪問しても男性の場合、玄関を開けて貰えなくても、女性の場合開けて貰える。防災訓練では男性が気付かない授乳室やトイレの問題等、課題を出してもらえる。
・高齢者支援の一環として認知症サポーター養成講座を実施し女性の積極的な参加があり、女性としての認知症の方への接し方や地域での見守りが確立できた。
・高齢者支援の事業を進めるうえで心配りが行き届き、参加者の喜ばれる。人が集まる場所が花等で美しく飾られ気持ち良く人が集まる。
・祭礼行事の企画立案や行事の推進に当たって女性としての柔軟さやきめ細やかさが如実に表れ、地域住民から好評を得ている。
・子ども育成会の会長が女性で企画立案など女性ならではのきめ細やかさで活動が活発化した。
・子ども食堂の開設、公民館での子ども(小学生)の預かり、見守りの活性化。
・事業企画、運営で女性の視点での立案、活動が多くなった。自治協の運営面で女性の意見が良く出され男女共同参画の意識が高まった。
・自治会連合で健康作り委員会を5名の女性自治会長(委員長も女性)で組織し、全員がまとまって活動が活発化し、女性目線で企画、運営しイベントへの参加も増えている。
・女性リーダーが増えれば、参加役員も相応に増加する。行事の執行役として活躍している。
・女性リーダーとした「子育てサポート部会」を設置、「子育てサロン」の参加者が増えた。
・小中学生を対象とした行事(クリーン作戦、リーダー研修会)等で参加、呼び掛けを行ってもらい、参加者が増えた。
・青少年の健全育成において、主に中学生の地域への参加が極端に少なかったが、女性会長になり、会長自身のノウハウが発揮され年間200名の参加があります。
・町内会、老老連等で語ろう会、サロン等を実施し高齢者の支援している。
・特に高齢者の見守りや1か所に集めてサロン等を運営する事により、高齢者の方がそれを楽しみにしている。生きがいの促進とコミュニティの活発化に寄与。
・防災委員会に女性委員の確保を行い、防災訓練での女性の提案を受け入れている。男女協にあっては避難所運営に女性の視点を活かすため、研修会を開催し知識の習得に努めている。
・防災訓練での安否確認や避難訓練での女性の視点を活かした活動内容となった。
・民生委員・児童委員については役員を含めほぼ女性が占めている。女性の方が気配り等、行き届いていると感じています。

問19. 活動内容の決定方法や予算の配分方法について、工夫していることがあれば、自由に記入してください。

問19 工夫している内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ ①効果が期待される活動計画への予算配分(内容により増額)。②効果が少なかった事業は予算の減額。③長期ビジョンに沿った予算配分。予算配分の決定は役員会で協議決定。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務を中心に前例踏襲の活動が続いてきた。各活動に、その年に応じたテーマ性を持たせた内容に出来ないか、検討を始めたところである。例えば30年の夏祭りは、豪雨災害の朝倉支援の販売会。盆踊りでは子供が喜ぶ選曲など、その年のテーマ性を意識した内容にした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会、夏祭り、新春の集いなど地域住民の参加を多くするために予算をつけているが、弁当、打ち上げなどは校区として行わない。地域カフェはボランティアの自主運営でしている。校区からは出ていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会は体育振興会が中心となって企業の協賛金を集めて各競技の商品代として充当している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会プログラムに広告協賛を企業、銀行、病院、店等に協力をお願いし、約120社になる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各々実行委員会を開催、構成員会員検討、各々予算実績の報告義務化している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各活動の中で、新しい企画等の提案、発案があれば、最大限の協力、予算措置に配慮している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体とのヒアリングの中で次年度の重点事業を配慮している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体とは、自治協役員と協議して予算を決めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体等の自習性を尊重しているが、それぞれかなり温度差があり、満足していない。自治協議会の関わり方が今後の課題。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に当たり、共創補助金の使途に大きな縛りがあり、自主財源が頼りになっている。そのため、各団体の事業が大きくなっていない現状。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の内容は各諸団体組織が自主的に運営する事を基本に地域への広がりを中心に置いている。予算(補助金:自主財源=3:2の割合)は自主財源が漸減傾向にあり、その対応に苦慮しており、夏祭り等の費用は地域の協賛金確保に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活発な団体に予算を振り分けている。また、半年で見直しを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修費用や部外講師の招聘等、多額の費用を要する場合は関係機関団体の共催として予算を運用している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館、各団体等との相互協力のもと事業を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区自治協議会主催事業等については企業協賛をいただき運営している。各部会ごとに年初予算を提出して頂いているが、予備費の項目を設けて予定外の支出事項が生じた場合、自由に流用できる項目予算だてをしている。総会に向けて予算をたてる時は7部会長、総務とで予算のすり合わせをして予算を立てている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区内の各種団体や実行委員の自主性に任せ、行事内容予算を提出してもらおう事になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を達成するために企画→各自治会長へ説明事業1つ1つを公開する事で意見が活発に出るようになった。女性を必ず3割以上参加してもらおう事で情報公開がスムーズとなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業内容や参加人数など、理解した上で決定しているのでスムーズにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業毎に予算を決めている。新しい事業については役員会にて決定。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治協議会で予算委員会を開催して年度毎に予算の支援を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治協議会と自治会連合会が一体化して自治協組織での各団体や、消防分団、公民館の連携が相互理解、まとまりが良いのでスムーズな運営、コミュニケーションが可能となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治協議会へ未加入の自治会があるが、活動内容等について広く情報公開を行っている(地域コミュニティだよりを活用)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治協定例会での周知、予算については各団体と協議の上、決定。次年度の予算策定に際しては12月ごろから策定し見直し等を行う等、早めの対応をお願いしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い方たちが参加しやすい様に可能な限り夜間(19時から)に開会している。予算の配分は各団体等の要求額を認める方向で検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多く活動してる団体、参加人数の多い時にチラシ等を配分するようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度の後期に各事業の内容の見直し等、次年度の活動方針を確かめる(役員会)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末に各種団体(事業運営母体)に対する会計報告及び次年度の活動計画、予算に関するヒアリングを実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員会でたたき台を作り実行委員会で決定する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算運用は柔軟に、年度途中で過不足が生じたら、役員会合意の上調整する。前例踏襲はやめるように努力する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算審議会を設け、その年の活動が活発な所に多く配分し、他の委員会に協力してもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算配分は①事前申請(年度末)の徹底→審議→新年度への予算化(総会)。②毎年新規事業として10~30万円/年を予算化している。

問20. 今後、どのような分野の活動に積極的に取り組みたいと考えていますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問20 17. その他

- ・ 小学校、中学校との交流、連携、特に子どもとの交流を大事にしていきたい
- ・ 大学との交流
- ・ 大学等諸機関との共創化

問21-1. どのようなものを定めていますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問21-1 5. その他

※回答なし

問21-2. それは、校区の住民に対してどのように周知を図っていますか。手段や 広報媒体について、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問21-2 5. その他

- ・クリアファイルを作成し、配布している。
- ・会議の場で周知している。
- ・総会、月一回の定例会で説明している。
- ・総会資料、合同懇親会(地域リーダーが集う)などで説明している。
- ・総会等で周知している。
- ・年度初めの定例会で発表している。

問22. 自治協議会等の運営や活動にあたって、どのようなことが課題だと思いますか。次の(1)~(3)のそれぞれの項目について、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問22(1) 4. その他

- ・ お世話(役)をしてくれる人がいつも同じ人
- ・ 一部の役員が固定化し人が育っていない
- ・ 運営や活動にあたって人材の発掘に苦労している
- ・ 自治会長、町内会長の意識のズレ
- ・ 実力もないのにやりたがり屋が多い。派閥がありやりにくい面がある
- ・ 若い人がいない(ほとんど高齢者が多い)
- ・ 地域全体が高齢化している
- ・ 町内会の人々の固定化が協議会にも及んでいる
- ・ 役員の仕事量負担を減らすこと

(1) 人材

これらの課題を解決するために必要な取組みや、現在行っている取組みがあれば、自由に記入して

問21(1) 取組み内容
・ サークル活動、その他を通じて、日頃の交流を深めている。
・ 運動会、夏祭り等実行委員の中で若手の活動家を団体のスタッフに入れる様にして若手の育成に努めている。
・ 夏祭りや文化祭にて実行委員制度を採用し、広く住民のお手伝いをお願いしている。その中より適材の人材を探す工夫を行っている。
・ 会議の回数や時間配分に気を付け、効率の良い会議の実施を目指している。
・ 外部委託での対応(ブログ編成、年間主催行事へのサポート業務)も検討している。
・ 強いて言えば役員の高齢化。PTA活動の中から人材を見つけていきたい。
・ 業務の軽減化を図っている。
・ 現在、事務処理できる人が一名おり、他の役員に仕組み等を伝授している。
・ 現在自治協議会会長は自治連合会会長、会計は自治連合会会計が兼務している。
・ 校区の行事には実行委員会を作ってボランティアの自主参加をお願いしている。フリーマーケット、夏祭り等。
・ 自治会長が1期2年で変わる町内が多いので、新たな取組み、方向性が出せていない現状があった。このため市事業の校区ビジョンを作成し校区内の意思統一を図っている。
・ 事業の見直し、組織の再編を行っている。
・ 事務局をNPO等に任せられないか検討している。
・ 若い人の人材を取り入れて年間2～3回の会議を行っている。
・ 若い人を受け入れるため空き家対策を実施する事としたところである。
・ 若者の参加促進を図る。
・ 小中学校のPTA(若い方)の活動への参加を呼び掛けている。
・ 新しい人材の発掘、運営面において記録性を重視している。
・ 人材育成事業を進めるため2度研修を行った。
・ 声掛け(積極的な)を推進している。
・ 専門家の講演会や資料を入手して、どうすれば役員が増えるか検討している。
・ 多くの事業を通し交流し、ふれあい、顔の見える活動で地域との楽しい活動、絆を考えている。
・ 単位自治会に対して各種団体の委員を積極的に複数人出してもらう様に要請している。
・ 男性会長の理解不足を情報の伝達開示を毎回の委員会で実施し、協力なくして運営は無理である事で協力依頼をしている。極力飲み会の回数を減らしたり、短時間で終了する事により若手の委員からは喜ばれている。
・ 地域で行う各行事の中から、適任者と思われる人に声掛けを行っている。パソコンでワードやエクセルが出来る人の発掘、自治協議会の予算について研修会を開催している。
・ 地域の交流を図るため、気楽に楽しく参加できるイベントを開催し、出来るだけ地域の新しい人達を取り込める様にしている。ビアガーデン、親子ボウリング大会、豆まき大会、餅つき大会など。
・ 定例会とは別に自治会長や町内会長、各種団体の会長にアンケートをとり、アンケートをベースにした会議や懇談会を各々年2回実施している。必要に応じ小委員会を設置し、各種課題の解決と人材育成を行っている。
・ 特に課題はないものの、運営を手伝う人が少ない。やれる人に偏っている傾向。したがって、なるべく関係のある人は全員参加できるよう工夫。(日、時設定や代替え要員の確保等)
・ 特に子ども会の役員のなり手が少ない。機会ある毎に子どもの健全育成に関わる大切な仕事であることを話し続けている。
・ 目に見えない隠れた人材をいかに見つけ出すかが課題。現在は一本釣りに自治協の事業への参加を働きかけ、新しい人材を見つけて出すようにしている。自治協だよりでも募集。
・ 役員の任期満了が集中するのを防ぐため、規約の改正を一部行った。若手が参加できる環境作りに取り組んでいる。

問22. 自治協議会等の運営や活動にあたって、どのようなことが課題だと思いますか。
(2) 住民

問22(2) 5. その他

- ・活動ごとに参加者数のギャップがある
- ・店舗、事務所の町内会加入が課題
- ・外国人居住者が多くなり、その対応が遅れている
- ・住民の高齢化
- ・参加住民の固定化(高齢化)
- ・若年層の方が勤め等に追われて、活動への参加するのが大変

(2) 住民

これらの課題を解決するために必要な取組みや、現在行っている取組みがあれば、自由に記入して

問22(2) 取組み内容
・ 12町内のうち、2町が当初より自治協に加入していない。毎年働き掛けはしているが今の所は動きはない。
・ HPなどの広報活動、掲示板やチラシによる広報活動。
・ 自治協議会だよりにて必須8団体の活動内容詳細解説を行っている。
・ 自治連合会でマンション問題や外国人居住者の町内毎の人数、国名等調査、実態把握を始め校区運動会や国際交流へ参加呼びかけをしている。
・ 従来の計画をそのまま遂行しているのが現状。広報紙やブログも活用をして呼びかけPRを行い、自治協活動を理解していただき、参加者増加の手段としたい。
・ チラシ等で住民の人々に知らせている。
・ マンション単独での町内会立上げを減らし、既存町内会との一体化での運営を進めている。
・ ワンルームマンションや賃貸マンションで、その管理組合が自治会加入を拒否し、公民館だよりの配布を受け付けないが、入居者には公民館の子育てプログラムの案内が出来ない。行政よりマンション管理組合への指導を求めたい。一部の方は自ら公民館を訪ねて自主参加して幼児の育児に加わっているのが現状。
・ 可能な限り、校区内住民の意見を収集できる様、会議、懇談会などで発言できる運営に努めている。全ての企画、実施のベースは「心」とし、常に相手の事を考えるようお願いしている。
・ 夏祭り、餅つき、そうめん流しなど参加しやすい事業を実施している。
・ 管理組合への接触不足を感じている。新規のマンション等は建築の前に建築説明会などを開いてもらうなどして加入を勧めてきましたが以前のマンションへの勧誘努力が足りていない。
・ 公民館会館を利用されている方たちに、積極的な参加を声掛けし、単位町会長には参加人数の報告義務を依頼し、少しでも単位町内の住民の参加を促して頂く様に努力している。参加が必要な事業については委員会時に23町内の組数(回覧板用)を配布し呼び掛けている。
・ 校区住民が全員参加できる行事(秋祭り、スポーツ等)の提供等。
・ 行事に若い方が参加しやすい様に土日に行う様にしている。
・ 高齢者対策として買い物難民に対するタクシーでの送迎(社会福祉協議会で費用拠出)。自主防災として校区内自治会別避難場所設定済。
・ 子ども会との連携により参加を呼び掛けている。
・ 自治協議会の事業、各種団体の事業、互いに連携を取り、多くの住民との交流、ふれあい等に取り組んでいる。
・ 自治協行事で重要なものは回覧を2度行っている。
・ 親・子どもと一緒に交流を図っているが、子どもは参加しても大人が参加しない。無関心な人が多い。
・ 専門家の講演会や資料を入手して、どうすれば増えるか検討している。又、広報活動を強めている。
・ 全住民参加への声掛け。
・ 地域全体の情報発信を行い、自治協議会の活動内容を理解してもらうため、年4回総合的な情報紙を発行する事とした。PR不足な面もあるのでフェイスブックや紙ベースのPRを強化推進している。
・ 町が昔からの住民と新しく居住している人との交流がうまくいかず、昔からの住民が高齢化して活動に参加されない。
・ 特に子どもを交えての行事に力を入れている。
・ 防犯、防災活動、学校PTAを通じて、地域行事への参画意識の活性化に取り組んでいるが容易ではない。
・ 目に見えない隠れた人材をいかに見つけ出すかが課題。現在は一本釣りの自治協の事業への参加を働きかけ、新しい人材を見つけて出すようにしている。自治協だよりでも募集。

問22. 自治協議会等の運営や活動にあたって、どのようなことが課題だと思いますか。

(3) 運営

問22(3) 7. その他

- ・ 巨大化しすぎた校区となっている
- ・ 人材の育成、新しい枠組の構築が課題
- ・ 役員の高齢化が進み活力がなくなっている
- ・ リーダーの意識改革と若返りが必要
- ・ 会議が多すぎるものが課題
- ・ 旧来型の団体の整理をすることが課題
- ・ 共創補助金についての使用用途を、事前総会にかけて欲しいとの要望
- ・ 公民館内に自治協議会専用室が無い
- ・ 参加者の固定化が進んでいる
- ・ 諸団体が多過ぎ、活動が重複している
- ・ 公民館サークル活動などで空き部屋がなく自協会議(緊急打ち合わせ等)に支障がある。
- ・ 役員になると一人で複数の役職を兼務しないといけなくなるものが課題
- ・ 予算運用が硬直化、習慣化している

(3) 運営

これらの課題を解決するために必要な取組みや、現在行っている取組みがあれば、自由に記入して

問22(3) 取組み内容
・わが町の自治会活動に、今、何が 필요한のか。その枠組みを設計できる人材の育成が必要。
・運営に携わる人の募集と参加を呼び掛けている。
・過疎化を防ぎ、校区の人口を増加させて、役員を引き受けてくれる人数を増やして職務を分担することが必要。
・各団体のコラボを常に提示している。
・各町内(自治会)に集会所を増すことが必要。自治協議会において一部の人の集会場所であってはいけない。事務局、公民館へ集まってくる一部の人が主体となってはならない。
・公民館の事務室の一室のデスクを利用している。会議の場合は公民館施設を利用しているが、自主性が損なわれている。自治会館の設立が必要であるが予算が伴わない。
・効率的な運営や円滑な運営を図るため規約の改正や見直しを行っている。定例会を利用して各団体の意見や提案を出してもらっている。
・行事を行うたびに実行委員会を設置して、各種団体より参加を募る方法を取っている。
・自治会各種団体が毎月運営委員会に参加し、意見交換会を行っている。
・自治会長、町内会長、各種団体の連携を良くするため、統一課題の元グループ討議等を行っている。
・自治協、事務局、会計が長く硬直化しているので改善したいが、固定観念も強い。現在、自由な議論と他校区の情報や事務局スタッフの増員を検討している。
・自主財源の拡大策と補助金の増額の両面が必要(高齢化社会へ対応した福祉事業関係の予算配分への対応策として)。
・実行委員会を立ち上げ、委員全員で取組み準備するため、問題は人手不足。現在、若手が参加できるよう改善している。
・諸団体の統合が必要だと感じている。
・地域住民の交流を図り、顔見知りになることが大事で、その中から声掛けやお世話のお願いをする様にしている。
・町内会に参加している住民が少なく、連合会より離脱している町内会もある。防災訓練や各種行事を通して、参加を促している。
・定年が65歳になっても働き続ける方が多いため、自治会活動に協力頂ける方が高齢化しているので働いている人でも参加できる体制、例えばいろんな行事をするのではなく何か一つを通年で行う等工夫がいる。
・予算が多くなったら、住民交流の場の創出や実施回数を多くしたい。
・予算の範囲内で効率的な執行を行っている。事業の質と幅を検討している。
・予算は年度の事業計画に基づき配分しているが、先行投資的な予算が足りない。例えば、防災に必要な資器材の整備など。

問23. 自治協議会等の運営や活動を充実させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

問23 8. その他

- ・ 市による広報
- ・ 自治会長の報酬補助金枠化
- ・ 区大会のような行事を辞めて、校区優先の行事を行う

問24. 近年、自然災害の影響や超高齢社会の到来などにより、地域の絆や共助に関する市民の関心や、地域コミュニティに対する期待は高まってきていますが、あなたの校区で、これらの対策として新たに開始した共助の取り組み(住民同士の「支え合い」や「助け合い」の活動など)はありますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。また、1を選んだ場合は、具体的な内容につ

問24 取り組み内容
・ 11町内会毎に災害時「一時緊急避難所」の設定をした。地域福祉事業と連携し助け合いマップを作成した。
・ ①外国人居住者との交流促進イベントへの参加呼びかけ②地域カフェへの参加促進へ校区内の施設、医療機関への参加呼びかけ
・ ①地区防災計画の策定②高齢者見廻り、見守り…ボランティア中心で実施。
・ 7月の災害で避難者が出たので助け合いの活動や、連携の取り方などで地域のコミュニティを取っている。
・ カフェを充実させ回数を増やし、住民同士の交流を図りたい(予算が少ない為、限定的になっている)。
・ クリーンアップ大作戦等の清掃活動、山笠、灯明ウォッチング等の共同作業、老人クラブを交えてグランドゴルフ等に体育振興会の若手が熱心に企画実行してもらっている。
・ これからの町づくり校区ビジョンを策定し、重要課題の実効に向けて、プロジェクト毎に検討メンバーを選定し、推進している(3~5年計画で今年度からすでに動き出したプロジェクトもある)。
・ 地域防災訓練。見守りネット。
・ つなぐ応援隊(認知症対応)、よってこ会、避難行動要支援者活動などを実施。
・ ふれあいネットワーク活動の充実 (1)お年寄りの見守り (2)介護予防活動
・ ふれあいネットワーク活動の充実により災害時の避難誘導がスムーズに行うことが出来ている。
・ 見守りマップの作成
・ 安全安心部として月一回話し合っている。年二回組長対象に防災訓練を行っている。
・ 夏祭り等の協賛金企業、商店等との連携をする事を目的とした講座等を開催している。
・ 区地域保健福祉課と地域で共催の福祉座談会を計画しており、支えあい、助け合い等に地域として取組を積極的に進める計画。防災については防災アプリやマンション地震などの災害対策に力を入れている。
・ 公民館主催でロビーコンサートを開催していますが自治協も協力して地域の人達の参加を推進し、自治活動に関心を持って貰うよう努めている。年間4,5回の開催
・ 向こう3軒両隣を意識した隣組対抗グランドゴルフ大会、夏祭りに校区の企業からスタッフ要員として参加してもらっている。施設の送迎バスを使って公共交通機関の不便さを補って無料で提供してもらえよう協議している。
・ 校区の自主防災訓練組織の結成
・ 校区内にある、高齢者用の施設が一緒になって地域支え合いネットワークを作り公民館を利用し、社協やいきいきセンターの協力を得ながら、顔の見える活動が出来ている。
・ 校区防災訓練に高校生が各町ののぼり旗を作成し提供してもらった。プラカードに比べ色別で各町が判別しやすく住民に大好評。
・ 高齢化社会となり、一人住まいの人が多いのでカフェを計画しているが、予算と場所等でなかなか思うように進まない。
・ 高齢者、障がい者を対象とした、手伝い隊、買い物支援活動を実施
・ 高齢者の健康寿命延伸の為にロコモ予防運動の定着
・ 高齢者見守り活動→防災訓練での安否確認まで拡大している→二年に一回の安否確認の継続、定着化を固めていく。
・ 高齢者地域支援を考える会を発足して取り組んでいる
・ 今年初の試みである大衆園芸を実施するに当たり(敬老会)遠方の高齢者の送迎に介護施設の送迎バスを提供頂き、家に閉じこもりがちだった高齢者が単位町内会長、民生委員の呼びかけで多数参加するようになった。
・ 災害時の避難行動要支援者及びその他の要支援者の見守り活動を、自治会、校区社会、福祉協会、民生委員などと協力して行う活動を本年7月からスタートした。
・ 自治会・町内会・民生児童委員・社会福祉協議会3社合同の避難困難者予支援訓練を防災訓練の始まる前に実施する事を申し合わせて順次実施訓練をしている。合わせて避難開設訓練も取り入れていく予定。
・ 若い人達の事業への参加促進に取り組んでいる。
・ 住民同士の支え合いを広げるため、地区に集会所を増していく予定。
・ 消防分団+自主防災(各町3名)で図上訓練を実施した。実施後に各町内で考えるとところも多数あった。
・ 青パト、乗車の為の研修、免許取得者110名、各自治会と防犯交通で当番制で実施、12組でスケジュールを組んで実施している
・ 地域カフェの充実を目指している。校区内のグループホームなどの施設関係者及び社協との連携で”お助け隊”を結成し、敬老会等の校区行事への助成をしている。

問24 取り組み内容
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に無関心な人、特に新たな転入者を取り組むイベントを実施し地域の親近感を感じて頂けることから始めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地場企業、大学との共創活動に取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会単位、自治会単位の防災組織の強化。高齢者を対象としたイベントへの参加呼びかけ。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の挨拶運動を目指している。
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症行方不明者捜索訓練の実施、防犯強化の為、わんわんパトロールの実施、健康寿命を延ばすロコモ運動の促進他
<ul style="list-style-type: none"> ・買物支援バス、ふれあい食堂
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に中学生の参加をお願いしている
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や公民館にて地域住民のコミュニティに関する講話等、住民同士の絆を広げている。又、民生委員による高齢者見守りを実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・防災組織の立上げ、校区内の組織、グループを一元化してお互いに連携を取り無駄のない活動が出来る様にしていく
<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制の見直しを図り各町内別の防災体制づくりに取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・予算の制約を受けて中々踏み込めなかったが、ようやく青パトを申請する事になった。防災・防犯に役立てたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者台帳の積極的な活用に取り組んでいる。

問25. 行政は、どのようなことに取り組む必要があると思いますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

問25 11. その他

- ・ 行政は自治協に任せすぎ。主体的に動くことも必要だと思う。
- ・ 条例がないと補助金をいつ切られても文句が言えないのでは。裏付けがない
- ・ 地域の問題点の把握と一緒に、解決していく活動を期待している。
- ・ 民生委員の制度改革。
- ・ 役員へのはっきりとした報酬。
- ・ 行政の都合に合わせた会議や関係の見直し。

問26. 校区担当職員に対して、どのような支援を望みますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

問26 7. その他

・どれも必要ですが限度がある

問27. 自治協議会等の活動にあたって、公民館の施設を利用していますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問27 4. その他

- ・ インターネット接続時に利用している。
- ・ 研修室の一部にパソコンを置いて時折使用している
- ・ 事業の活動の場として利用している
- ・ 相互の活動に対する情報交換、協力体制をとっている。

問27-2. 施設の利用時間などについて、不都合を感じることがありますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問27-2 4. その他
・ サークル優先の利用になっているため、空きがない
・ 駐車場が少ない
・ 独立した事務室の設置が必要
・ 利用が多く部屋がとれない場合がある
・ 現在自治協事務局を公民館においているが、今後独立した事務局で人事を作っていきたい
・ 自治協のスペース確保が出来ないため、活動に制約がある。これからの自治協、社協、民生委員当の活動の重要性から独立した施設の確保は喫緊の課題である
・ 書架の増加、Wi-Fiの設置が必要
・ 少人数の応接室(スペース)が無い
・ 土日の閉館時に利用する事があるので解決して欲しい
・ 日曜日の休館をやめて欲しい。平日は5時で閉まり、仕事してるので日曜日に使用したい。地域で使用しやすい館にして欲しい
・ 補助員を含め、人件費運用の制約から利用制限を感じる時がある

問28. 自治協議会等の活動に対して、公民館からどのような支援を受けていますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問28 7. その他

- ・ 外国人交流事業や新しい視点での企画運用が出来ている
- ・ 行事参加のため申込受付と内容問い合わせ対応を支援してもらっている
- ・ 事業実施への支援や、連絡事項など多岐にわたって支援を受けている
- ・ 助言はないが、事業実施に協力してくれている
- ・ 情報共有の仲介者として担っていただいている。本日何時にどこのどなたが訪ねてこられ自治協にこのような依頼があった等、即刻メールにて報告いただいている

問32. あなたは、自治協議会等の会長として、特にどのようなことに時間をさいていますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

問32 9. その他

※回答なし

問33. あなたは、校区で、自治協議会等の会長以外の役職に就いていますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問33 15. その他
・ シニアクラブ女性部長
・ まちづくり協議会
・ リサイクルステーション
・ 共同募金会
・ 国際交流委員会会長
・ 財務部長
・ 社協事務局長、町づくり協議会代表
・ 保育園・小学校・中学校サポーター会長
・ 商店街振興組合理事長
・ 共同利用会館会館長
・ 区補導員会会長
・ 農事組合長、水利組合長
・ 文化部長、広報部長
・ 保護司
・ 少年補導員
・ 単位老人クラブ会長

問35. 次に挙げた団体などの中に、自治協議会に参加しているものはありますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問35 16. その他

- ・ まちづくり推進委員長
- ・ 小中学校
- ・ 少年補導員
- ・ おやじの会、公民館
- ・ ボランティア会
- ・ 青パト隊
- ・ 防災士会

問38(2)-1.具体的な事業・取組み内容や、事業・取組みを始めたきっかけ・理由などについて記入してください。

問38(2)-1 事業・取組み内容
<ul style="list-style-type: none"> 「まちづくり共創懇談会」を設立し、年2回会合を行っている。29年度からの市の取組みと地域の連携を深める。
<ul style="list-style-type: none"> 「いきいきセンター」などと連携した、地域内福祉事業所との助け合いマップを作成して、災害等での要支援者への支援体制を構築した。当校区は公民館、小学校が土砂災害警戒区域に入っており、使用できない為、民間の事業所を活用する必要性がある。
<ul style="list-style-type: none"> 3世代交流餅つき大会に、企業（銀行）が参加（昨年から）。
<ul style="list-style-type: none"> イベント等に出店をして頂き、校区の活性化に積極的に参加して頂いている。
<ul style="list-style-type: none"> 校区夏まつりへの巨額協賛およびステージ設置協力。2006年の単一自治会主催時から多大なるご協力をいただいている。校区音楽祭のスポンサーなども。
<ul style="list-style-type: none"> ふれあいカフェ、ふれあい食堂、買い物支援バス、青パト、夏祭りなどで協力を得ている。
<ul style="list-style-type: none"> ふれあいネットワーク研修会に民間事業者を必要に応じて招いたことがあるが、そのつながりは弱いと考えている。これからは連携の力を入れていきたいと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> 運動会等の催事に景品等の購入を行うようになった。
<ul style="list-style-type: none"> 夏祭り（秋）運動会、事業団体等から参加が寄せられ実施している。
<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りに商店会の参加、文化祭へ商店会の参加。夏祭り、体育祭へ病院の協力。健康フェスタ等の病院からの指導や健康体操等の指導。大学との地域連携事業、夏祭りへの参加。子育てサロンの会場を病院が提供。
<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りへの協賛先（近隣商店校区外比率60%、医院、飲食店等）の拡大、夏祭りの設営費用（踊台、テント設営等）を補填する財源として5年前から積極的に取り組んでいる。（本年度H30年：実績約60社）
<ul style="list-style-type: none"> 福岡市共働事業提案制度を利用して、NPO法人・自治協議会・福岡市住宅都市局で、校区における「空家活用」「貸家創出」による定住化促進事業を昨年度より実施している。
<ul style="list-style-type: none"> 我が校区では歴史の遺産が多いので、歴史の町づくりをこれからも力を入れたいと思っているが、NPO法人の方々から、どの様に進めて行けば良いのか、他の地域（他の都道府県も含めて）の事例など、アドバイスを頂きたいと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> 介護施設や老人ホームや医療機関が自治会と連携して、地域の見守り等協力している。
<ul style="list-style-type: none"> 月一回校区で実施している歩こう会に、介護施設の方が高齢者の送迎をしてもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> 献血活動や、今年初めて行うハロウィン活動、買い物難民対策で企業とタイアップ、専門学校による小学校の子ども達にイベント協力。
<ul style="list-style-type: none"> 校区活性化の為に遊休土地の活用で、行政から紹介された事業者と活用方法等共同で行った。
<ul style="list-style-type: none"> 校区事業に対して応援をして下さる企業、福祉に関して校区内の特養さんより認知症等の研修等の活用についてユマニチュードについてお話を頂いている。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者対策として、月一回健康に関する事業を事業者と行っている。
<ul style="list-style-type: none"> 自治協議会と商店街との共同でマップ発行。
<ul style="list-style-type: none"> 商店街の夏祭りやハロウィン等イベントに自治協として支援。商店街の活性化は地域の活性化につながる。自治協と商店街と協議し、イベントのどの部分で支援できるかを話し合っている。また商店街の総会に出席して全般的な事業内容の把握に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> 消防団との連携。福祉施設との交流の強化。小学校、中学校との連携の強化。地域の行事は自治会の単独活動では成り立たない。
<ul style="list-style-type: none"> 西鉄バスの協力を得て町内にバスが通るようになった。社会福祉協の原資では無理と感じ自治協全体で取り組むようになった。
<ul style="list-style-type: none"> 本年度病院より今まで病院独自で実施してきた「病院健康フェスタ」を校区共催の「健康フェスタ」への共同開催の申し出があり、校区として「健康づくり委員会」「公民館」「自治会連合会」「団体協議会」が共催で開催する事と決定し準備中。
<ul style="list-style-type: none"> 今年度から、校区内の総合病院が独自で実施してた献血に、相乗りで実施することとなった。25年度から松林の保全活動をしているが、このところ学校、病院他からの協力を得ることが出来る様になった。夏祭りに福祉施設が模擬店を出してくれる（持ちつ持たれつ）。
<ul style="list-style-type: none"> 年金制度や定年制の影響かと思うが、自治会の役員の高齢化が進み、元気な若者の参加を地域住民からではなく、校区の企業から参加協力頂いている。校区が広い為、公共交通機関の不便さから、企業の送迎バスを利用させて頂いている。
<ul style="list-style-type: none"> 校区内にある数少ない事業所への相談を繰り返し行っていたところ、臨時避難所の提供を快諾して頂いた。
<ul style="list-style-type: none"> 防犯パトロール、イベント参加と準備片付けに大学生が参加、協力。イベント救護待機に病院が協力。

(3)企業や商店街、NPO、大学などがどのような形で地域のまちづくり活動に関わっていくことが必要だと思いますか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

問38(3) 8.その他

- ・ 企業やNPOへ校区へ出向き積極的な推進方法を提案。第1回の実施までの運営協力に関わる事を押し進めて欲しい。行政の方が来られてありますから利用してくださいでは進みません。やり方が分からない会長や人達に対して、今一步進んで進出を企業やNPO、大学に呼び掛けてもらいたい。
- ・ 共創出来る事を協力して、活性した校区にしたい
- ・ 校区に商店等がない
- ・ 校区の空家活用、貸家創出
- ・ 事例などの情報が必要

問40. 市の地域に関する施策全般について、今後必要だと思う取り組みや、市や区役所に対するご意見やご要望などがありましたら、自由に記入してください。

問40 意見要望
<ul style="list-style-type: none"> 「共創自治協議会」を掲げ始められたことの根拠が不明確であり、まさしくトップダウン的な取り組みであると言わざるを得ない。
<ul style="list-style-type: none"> 市はもっと自治会・町内会への加入促進へのサポートをしてほしい（一戸建て/集合住宅とも）。自治協議会役員手当を増やすことができる補助金を出してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ボランティアという言葉で全てを片付けて欲しくない。高齢化だけが突出して事業が多い。根本的な人材育成が必要だと思う。少子化の問題が議論されない様に思える。
<ul style="list-style-type: none"> 市で自治のプロを養成して、各自治協に配置して、市全ての自治協が全ての課題に対し統一した取り組みを行う為、指導して欲しい。各自治協区々では、いざという時、安全安心とはいえないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 地域が分断状態にある最大理由は、自治会活動にメリットを見いだせないからではないか。住んでいる地域へのアイデンティティを育む政策、これを行政に望みたい。「人材育成と空気づくり」ここに切り口があるのではなからうか。福岡市は“浮き草”住民が増えている。
<ul style="list-style-type: none"> 安心安全まちづくりの姿勢であり、防犯カメラの維持管理費を地域負担にするのではなく事業の重要性、継続性からもランニングコストは市負担にして頂きたい。
<ul style="list-style-type: none"> 会長一年目なので、区の地域支援課の自治協議会に支援する内容が、充実していて驚いている。担当職員もきめ細かく支援しているので助かっている。区の自治協議会の役員会や会長会に出席しているが「心遣い」「気遣い」が市の職員の皆様に真に感じ、市長として役所も変わったと思い感謝している。
<ul style="list-style-type: none"> 協議会長及び役員、委員のなり手不足について、対応業務の多さ、年金繰り上げによる高齢者の就労、社会経済状況の変化、高齢者の意識変化、会長、役員手当の額の問題（ボランティア）、昨年導入の会長手当て5万円（年間）と公民館長180万（年間）の差などがある。
<ul style="list-style-type: none"> 近年ワンルームマンション等（ファミリーマンション含む）が多く建設されていて、中々町内会への入会がされないのが実態。行政からの指導を強化して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 健康作り（元気で長生き）について色々と施策を考えてあるようで、非常に好ましい事ではあるが、地域で出来る施策等を情報提供してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 校区にある旧公民館について、市の関係部署が利用しているが、その地域に会議棟の集会場所が無く非常に不便な思いをしている地域があるため、その部署が退去する事を前提に集会所としての活用が出来ればと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> 校区によって地域特性があるが当校区では、都市化が進み単身者向け、投資型マンションが増加し、将来的には地域コミュニティの低下が予想される。活動の源泉である町内会加入(会費)に行政がもっと力を入れて頂きたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性である豊かな自然環境と歴史資源を活用して、あるいは、イベント等を開催して、また、校区にある施設と一体となって校区の活性化を図り人口を増やしたいと思っているので協力をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 校区内危険個所の早期点検。民生委員の推薦方法の改善。校区面積が広く、コミュニティ場の増設。有事の時の避難所が無い（行けない）。紙資料からクラウドを活用した資料の提供や回答。コミュニティバス、西鉄バス連携による高齢者支援などに取り組みたい。
<ul style="list-style-type: none"> 行事が多すぎる。市、区の大会に合わせて校区で諸行事（ママさんバレー、壮年ソフト、子どもドッジボール大会等々…）校区について行けない面があるのでは。校区自治協議会は、市、区の下部機関ではない。あくまでもボランティアの集合体であることを再度認識してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 行政からの自治協議会会長への依頼事項が多いのではないかと。自治協は任意団体であるはず。行政からの依頼事項は官庁が行うべき。10数年たった自治協議会組織について、改めて検証する時期に来ているのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> 行政からの情報の提供をこまめに、そして早くお願いをしたい。まとめたの情報提供でなくその都度お願いしたい。市の担当部所が分かりにくいので担当割表とTELを自治協会長へは表にして渡して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 行政は自治協への依存度が高く、一方、受け入れ側の自治協会長はボランティアの位置づけであり、責任感、使命感で多用な責務をこなしている。以前の「町世話人」制度とまではいかなくとも自治協会長、自治会長が、行政からの委託された人間であるような仕組みにしないと自治協制度は早晚破綻する危機感がある。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展により、単位自治会でも小規模な自治会は担い手が不足し兼務者が多くなっている。安心安全の町づくりの土台である自治会は地域にとって重要な組織であるとお思っている。今後は、小規模自治会の再編を維持していく為には条例化等の対策も必要ではないかと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> 市からの依頼事は毎年の様に増えるばかりで、減ることはない。若い方たちの考え方も時代と共に大きく変化しており、費用弁償も地域活動に必要と考える。共創補助金の大幅な増額により全額を費用弁償に充てたい。

問40 意見要望
<ul style="list-style-type: none"> 今一番大切なのは人材育成である。役員・委員の方が高齢化している為、将来この会を引き継いでくれる人材がないので町内会自体がなくなる恐れがあり、高齢化に伴い協力者がいない。
<ul style="list-style-type: none"> 今年から自治協会長に就任したが、業務の多さにびっくりしている。校区の活動、行事等を充実させればさせる程、追いまくられてるような気になってしまう。共創の名のもとに地域に負担を増やしていると感じている。
<ul style="list-style-type: none"> 最近、国、市が進めている社会福祉に関する自治協議会への要望について、考え方は理解できるが、民間に於いて高齢者まで仕事を求められている現状では、人を見守る事には限られた人しかできないのが今の社会である。
<ul style="list-style-type: none"> 市（区役所）からからの通知や動員の多さに困惑している。校区の行事に関するものも、自治協会長に来るので振り分けに苦勞（公民館へ足を運ぶ）している。
<ul style="list-style-type: none"> 市が実施している「地域デビュー応援事業」について、当校区でも5つの自治会が利用したが、非常に大きい成果が上がっているようで、住民間の交流も以前より深まり、自治会活動が円滑になって来た実感されている。役所の助成事業も三年間で打ち切りというのが定番となっているが、「地域デビュー応援事業」については3年間の助成があれば住民の下支えも可能となり、十分4年目以降も町内会のみで持続できる目途が立ってきている。予算の拡充も視野に、今後も続行して頂けるようお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 市の「共創の時代」の趣旨は大いに賛同する。コンセプトや方向性を組織の下位レベルに少しづつ具体的にどうするべきか、どう考えるべきかを考えさせるステップが必要かと感じる。末端まで浸透させるのは大変だと思うが全組織で取り組んでほしいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 市職員の住所地での当該自治協議会への参加を望む。職員の各自治会の居住人員が知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> 市民の常識、マナーの向上を望む。ゴミのポイ捨て、遊びのマナーが悪い。
<ul style="list-style-type: none"> きっかけがあれば社会活動に参加したいと考えている方は多いと思う。そのきっかけをどうマッチングさせることが出来るかが大切だと思っている。定年退職が70歳時代を迎え、さらに社会活動に参加される絶対人口が減少する。まさに正念場の施策導入を検討する時だと考える。例えば、自治協議会会長は年間200日以上以上の活動が求められている（自主活動を含む）。活動手当ては市助成金に予算化されたが、会長手当ての基準値を示してもらえたらと思う。基準になるものがなく検討しづらい。
<ul style="list-style-type: none"> 自治会活動、運営に四苦八苦しているのに、連絡会議では求めるだけの文書が多い。例えば、「こんな成功事例がありますよ！」とか受け入れ、真似してみようかとの事例の披露するとか、もう少し会議のやり方も検討してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自治協に対する当アンケートに止まらず、行政側の諸施策についても自己評価を公表すべき。
<ul style="list-style-type: none"> 自治協議会、役員報酬があまりにも少なくボランティアとは言え、責任感が発生しない。
<ul style="list-style-type: none"> 自治協議会として校区住民に対し、最大限の活動をしなければと思っている。しかし、私共から行政を見ると、私共の位置づけをどの様に考えているのかが、不明確と思える。高齢化、災害等を例に挙げてみても、最も真に連携し研究しなければと思えるものが多くあると思われる。お互いが少し遠慮しているように感じている。お願いものが多くある割には、何となくこれまで通りの対応で終わらせている様に感じている。
<ul style="list-style-type: none"> 自治業務の位置づけと財源が必要。自治協業務は肥大化傾向にあり、自主組織としての域を超えて、行政業務用件の連絡、調整、各種公的人選等に多くの時間を費やしている。（民生委員、公民館長）自治協本来業務とのバランスに苦慮している。行政の合理化はそれなりのコストを払って業務を委託して欲しい。また、会長職の位置付と報酬（業務量とコスト負担の財源）、報酬の制度化（補助金化）が望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 住民ニーズの多様化、人権等の取組、社会変化のスピード化等、市の抱える課題は膨大で職員の方も大変だと思う。地域住民が後回しになるのかどうかは分からないが、職員にあまり負担をかけない様な、例えば「材料は提供するので自分たちで作る」など方法をお互い考えて行けたらと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> 自治協議会の在り方について（1）校区内の全住民を対象とするものではなく、あくまでも町内会加入者で組織しているもの。（2）災害発生時に自治協に何を期待するのか、それに対する待遇はどうなるのか、基本的な事項を明確にすべき。（3）防犯灯は地域の安全に欠くことが出来ない施設。補助対象だけではなく行政の事業として推進すべき。行政と自治協との懇談会等を開催し、住みやすい街づくりを推進してもらいたい。

問40 意見要望
<ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成、特にこれからの地域リーダー育成の為には運営、組織の在り方に関する研修会（できれば継続的）の開催が必要である。外国人居住者への対応、特に多言語対応や文書、ルール（生活面）教育を行政、学校で義務化、徹底して欲しい。自治協への支援、行政指導は多岐にわたり増大しているが予算支援が不足しており人的負担や行政の肩代わりが増えて地域の負担（人的労力、時間）が大きくなる傾向にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・自治協議会制度創設のH16年から、区役所の地域支援課には、本当によく指導頂いており、連合会の時代より地域は活性してきていると思っている。町内、校区、区、市と活動している方々の意識改革がもっとできると良いすが難しい問題。
<ul style="list-style-type: none"> ・当校区において、団地（UR）に高齢者の優先入居をしたことにより民生委員の人手不足やなり手不足、各種団体の委員不足、又、自治会への未加入等が問題となっている。校区の自治協議会は3つの自治会で成り立っているが、2000世帯の団地でこのような問題を抱えており、校区の大きな行事を2つの自治会の委員で行っているのが現状。
<ul style="list-style-type: none"> ・単一町内会毎の集会所の設置をお願いしたい。集会所のある町内では地域の住民のつながりが深い。今後は必要とする単位町への相談にのり、実行へ向けての官民一体となつての取組が共創の町づくりではないか？イベント研修の企画補助も良いが、まずは地域住民が地元（町内）でつながれる居場所づくりを検討してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の改革は、まずは公民館館長の報酬改革から。公民館設立当時は、行政に代わって地域を指導する立場で、館長は名誉職でその状態が今の高額報酬となっている。館長の1ヶ月分が、会長の年額以上であり、館長候補は多くの方が手を挙げるが自治協会長は誰もいない。働く時間、責任を負うには、あまりにも低額。館長報酬を会長の年額程度に改革すべきであり、この改革をしないと役員のなり手が無い。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設にも支援、土砂災害が起きた時にも支援物資を提供、災害が起きた時に素早く対応して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域は自主、自立の気構えを常に、行政は地域に対する知恵と扶助の心構えをもって、縦横に緊密な連携を取るよう努力すればと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援課の職員に大変お世話になっている。市、区役所のパイプ役となり意思の疎通がスムーズに行われている事は大変大事だと思っている。この人材確保と全校区のコミュニケーションが良好に保たれるよう共創の精神をより一層努力していかねばならないと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・住民へ町内会加入のPRをして欲しい。マンション住民の加入拒否が多くなり、活動に支障がある（特に新築集合マンション）。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会費を支払わないマンション管理業者を、指導して欲しい。町内会費支払いの必要性を、市民に周知して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・住民からの匿名のクレームに過剰に反応する事はやめて欲しい。提出した要望には途中経過も報告してもらいたい。助成金の基準は人口比だけでなく、活動量を案分すべきであり、また、助成金の一部に役員手当を含めて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援課の担当者はよく話に乗ってくれ、諸問題に対応してくれる。我々も高齢者の域に居る為に思考が遅くなり、区役所からの担当者は広域な知識を持った方が欲しいので今後ともよろしくご指導願いたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設について、昨年度から毎年避難所開設訓練が行われているが、避難所開設の際に建物の安全点検は全く行われていない。地震での二次災害を防ぐためには、避難所となる建物の安全点検は絶対的不可欠な事と思う。施設管理者や自主防災会で避難所を開設する際に行うべきであり、建物の安全点検の要領を是非とも指導してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度「共創コネクター」と共に校区ビジョンを進めている。校区の自治会役員（町内会長）が一期2年で変わる為、前期の行事を消化するのが精一杯で、目標を持つての取組は難しい。役員が変わっても、行事に主体的に取り組むためには、取組みの方向性を持つて進めることが重要（校区のビジョン作成）。市や区の行事に参加するための事業は、出来るだけ辞め（体振、子供会の予戦）、自治協主体の行事に絞る事が重要と考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、児童委員の候補者推薦について、地域福祉を支えるボランティア活動として必要不可欠なものである。しかし、近年担い手不足で中々後任が決まらず、欠員状態が続いている。もう地域任せでは限界に来ている。又、ボランティアという美学的な精神論は通用しない時代である。今こそ行政が対応すべきではないだろうか（無償から有償化へ）。保護司についても同様の事が言える。